

先月初旬、諏訪市内に住む娘が久しぶりにやってきた。お茶を飲みながら話題になったのは、中学校3年生の孫が修学旅行に行くことだった。今年4月に奈良・京都方面へ行く予定であったが、新型コロナウイルスの影響で延期になっていた。

話によると、10月に実施され、行き先は上高地、安曇野、大町、白馬とのことだった。生徒たちにと

って修学旅行は中学校生活の中で最も楽しみにして

る行事の一つと思われる。特に奈良・京都は日本の歴史や文化を学べる絶好の場所であり、多くの学校が訪れるが、その機会が失われたことは残念であった。

旅行が終わった孫に電話をかけて感想を聞いてみた。初めて行った上高地の雄大な景色ときれいな川の流れ、北アルプスを背にして広がるワ

孫の修学旅行

サビ田の風景、気球に乗って眺めた白馬面の山並みなど、自然の素晴らしさに感動して帰ってきたようである。諏訪から塩尻峠を越えればすぐに来られる所のように思われる。うけれど「灯台もと暗し」と言われるように、身近な所は後回しになったり、見過ごされたりする。

コロナ禍の中で宿泊を伴った集団行動ができたことは何よりだったと思われる。きつと、密を避ける計画を立て

て実施された先生方の気苦労は大変なことだったのではないかと推察する。そういえば、私は小中学校の修学旅行はほとんど記憶に残っていない。高校生のときはなかった。修学旅行の在り方も変化する時なのかもしれない。

（安曇野市穂高、荻原義重、76歳）

口 差 点
こうさてん